

日本小児感染症学会若手会員研修会第5回福島セミナー

第5回若手会員研修会「夏季セミナー in 磐梯熱海」の感想と来年の予定

多屋馨子*

2014年9月13～14日に、第5回若手会員研修会「夏季セミナー in 磐梯熱海」が福島県郡山市にある「磐梯熱海温泉 清稜山倶楽部」で開催されました。このセミナーは、日本小児感染症学会が研究教育委員会（委員長：長崎大学医学部小児科 森内浩幸教授）の企画で5年前から毎年開催している若手会員対象の合宿セミナーで、若手を中心とした会員が約40名集まって、小児感染症・免疫を専門とする中堅からベテランの委員（表1）とともに24時間を過ごします。理事長の先生（第1～3回：森島恒雄理事長，第4～5回：堤裕幸理事長）も毎年、ご参加いただいています。あえて24時間と記載したのは、講義形式のセミナーのみならず、グループワーク、夜の懇親会、特別企画、グループワークの発表会など、1日目の午後から2日目の午前までのすべてをひとまとめにしてセミナーと考えているからです。第1回は水戸で、第2～4回は安曇野で、そして第5回は磐梯熱海で開催されました。第1回は水戸協同病院，日立製作所水戸総合病院，第2～4回は長野県立こども病院，第5回は福島県立医科大学小児科の先生方・スタッフの皆様のご多大なご支援・ご協力をいただいで開催されました。この場を借りて、まずは深くお礼申し上げます。

またこのセミナーは、24時間のセミナー当日前後の数カ月もとても大きな意味をもちます。参加希望者はグループに分かれて、一つのテーマについて掘り下げて考え、まとめあげていくのです

表1 小児感染症学会研究教育委員会

委員長	森内浩幸		
委員	小田 慈	笠井正志	金兼弘和
	木村 宏	齋藤昭彦	坂田 宏
	田中敏博	多屋馨子	堤 裕幸
	成相昭吉	橋本浩一	

が、今年は6つのテーマ（表2）をとりあげました。約1カ月前からグループのメールディスカッションが始まります。そこは、グループによって大きく盛り上がる場所、みんな遠慮がちでなかなか盛り上がるのが難しいところ、さまざまですが、当日は初めて会ったとは思えないチームワークで、一気に集中力が高まって仲間どうしが意気投合します。

最初はチューターを中心としたショートレクチャーがあります。その後、各グループに分かれてテーマに沿って調べてきた内容について議論をしながら、2日目のグループワーク発表の準備を行います。会場には温泉がついているところが多く、食事もおいしいのが特徴です。温泉に入って食事を終えて、少しくつろいだところで、セミナーが再開されます。この時間は、浴衣参加OKとなります。そこでは「特別講演」「お宅どう？」や「ケースカンファレンス」などがそれぞれの回で企画され、びっくり！や感動、笑いが混在した楽しい一時のなかで、多くの学びを共有する時間となります。また、夜の懇親会では他では滅多に

* 日本小児感染症学会研究教育委員会委員

表 2 第 5 回若手会員研修会「夏季セミナー in 磐梯熱海」グループワーク

グループ	テーマ	チューター
A	PCV7, ヒブワクチン普及後の肺炎球菌およびインフルエンザ菌感染症診療における課題	成相昭吉
B	どうして子どもは中耳炎になりやすいのか?	金兼弘和
C	ホントに必要? おたふくかぜワクチン	多屋馨子, 橋本浩一
D	健常小児水痘に抗ウイルス剤を使用すべきか?	木村 宏
E	海外渡航, 小児科医の出番です!	田中敏博, 南 希成
F	外来での抗菌薬適正使用を真剣に前向きに考える	笠井正志

経験しないような「好きな〇〇は?」の一言を含めた自己紹介があり, すべてのグループ, チューターと和気あいあいとした楽しいときを過ごします。セミナー参加者に配られる資料集は, 他では絶対にみられないようなチューターの素顔が記されています。懇親会では, 全国各地の名産ももち寄られて, 若手からベテランまで, 年を忘れて時間を忘れて語りあいます。

筆者が参加したのは, 第1回の2日目, 第2回と第3回の24時間, 第5回の24時間ですが, 第4回はセミナー前日に不覚にも職場の正面玄関前(平地)で右足を捻挫し, 歩くこともままならなくなり, 急遽当日の深夜にあきらめた経験があります。しかし, 第3回までと第5回を比べると, グループワークの様子が大きく変わってきたことを感じます。2日目の発表に向けて, 各グループが議論をかわし, 発表のプレゼンをまとめます。各グループには担当のチューターがついて, ときどき suggestion をしながらチームの活動を見守るのですが, グループによっては夜の懇親会が終わってから明け方までグループワークをしているところがあり, 若手会員の先生方のエネルギーと集中力には驚きました。寝不足でぐったりの先生もいたと思いますが, きっと一生忘れられない思い出の一つとして財産になるのではないかと思います。

また2日目のグループ発表会はとてもレベルが高く, この発表会を聞くことで, すべてのグループテーマについて最近の話題やトピックスがわかり, 課題になっていることを共有できます。その完成度の高さには驚かされるとともに, 小児感染症学会の未来が明るいことを感じました。第5回からは, グループワーク発表後に優秀賞の発表と各賞の発表があり, 表彰状が贈呈されます。

現地解散してからは, 各グループがチューターとともに約1カ月かけて論文を仕上げていきます。仕上がった論文は本学会の機関誌である「小児感染免疫」に投稿します。夏季セミナーに応募してから半年もたたないうちに, 全国に夜を徹して語り合った多くの仲間と論文が仕上がるというすごいセミナーだと思います。温泉に入って, 飲食をともに夜遅くまで語り合った先生とは, 学会などで出会っても気軽に声かけられる関係になっていることと期待しています。

2015年も第6回を岡山で開催しようと, すでに相談が始まっています。日本小児感染症学会の若手会員セミナーで出会った仲間が毎年増えていくことを嬉しく思います。来年も楽しい企画で盛りあげていきますので, 若手会員の先生方楽しみに待っていてください。

* * *